

# 水稻の生育状況（7月25日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2024年7月25日

## 1 生育状況

7月25日現在の水稻の生育状況は、平年値(2014～2023年までの過去10年平均)と比べて、表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況(7月25日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬	やや長い	少ない	同等
	6月中旬*	長い	多い	やや濃い
キヌヒカリ	6月上旬	同等	少ない	やや薄い
	6月中旬	やや長い	多い	やや濃い
てんこもり	6月上旬**	長い	多い	濃い
	6月中旬**	長い	やや少ない	濃い

\*2015～2023年までの過去9年平均との対比、\*\*2018～2023年までの過去6年平均との対比

## 2 栽培上の留意点

気象庁が7月25日に発表した1か月予報(7/27-8/26)では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並み」、日照時間は「ほぼ平年並み」の見込みとなっています。

今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

### (1) 出穂期

出穂期は、7月25日現在の生育状況と今後の気象予報からやや早いと予想されます。

### (2) 追肥(穂肥)

追肥は、稲の生育調整と後期の生育維持のために行います。追肥時期は幼穂の長さから判断し(写真1)、施用量は水稻の品種や生育状況、天候や水田の特性により調整してください。標準的な追肥時期及び施用量は表2のとおりです。

ただし、出穂後に高温が続くと生育後半に窒素不足になりやすく、白未熟粒の発生が多くなるため、適切な追肥管理を行い、登熟期に肥料切れがおこらないようにしましょう。

表2 標準的な追肥時期と施用量

品種	時期	施用量(10a当たり)
はるみ	出穂期の15日前頃 (幼穂長15～20mm程度)	窒素成分2kg (例:化成肥料17-0-17で約12kg)
キヌヒカリ	出穂期の20～15日前頃 (幼穂長2～20mm程度)	窒素成分2kg (例:化成肥料17-0-17で約12kg)
てんこもり	出穂期の20日前頃 (幼穂長2mm程度)	窒素成分3kg (例:化成肥料17-0-17で約18kg)



幼穂長の計測(写真1)

- ※ 基肥に緩効性肥料(てまいらず等)を使用した場合は、追肥は基本的に不要です。
- ※ 葉色が濃い、茎数が多い、草丈が長い場合は施用時期をやや遅らせます。
- ※ 多日照・高温傾向、乾田・漏水田などの場合は施肥量をやや多くします。

### (3) 水管理

穂ばらみ期から登熟初期（出穂期 15 日前から出穂期 10 日後）までの期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らないようにしてください。

また、出穂後に高温が続く場合は、高温障害により胴割粒の発生が多くなるため、「かけ流しかん水（特に夜間のかけ流し）」を行いましょう。かけ流しが困難な地域では「間断かん水」を行い、常時湛水状態にしないよう注意しましょう。

また、落水時期は可能な限り遅らせ、「早期落水」をしないようにしましょう。

### (4) 水田周辺の雑草管理

斑点米カメムシ類（写真 2）は水田周辺の雑草に生息し、出穂期になると水田内に侵入し、籾を吸汁して斑点米を発生させ、落等の要因となります（写真 3）。日頃から畦畔や水田周辺の除草管理を徹底しましょう。ただし、出穂期頃の除草は、水田に斑点米カメムシ類を追い込むため、畦畔雑草の除草は出穂期 10 日前までに終わらせましょう。



斑点米カメムシ類（写真 2）

斑点米（写真 3）

### (5) ナガエツルノゲイトウ

ナガエツルノゲイトウの発生地域が拡大しています。水田に疑わしい雑草が見られた時は、最寄りの JA または農業技術センターに連絡してください。

なお、ナガエツルノゲイトウの防除は農業技術センターホームページに掲載している世界最悪の侵略的植物「ナガエツルノゲイトウ」に警戒を！を参照してください（写真 4）。

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/88221/r6nagaeboujyo.pdf>



ナガエツルノゲイトウ（写真 4）

## (6) 紋枯病

紋枯病は、高温・多湿条件で多発します。

‘はるみ’ ‘てんこもり’ とともに紋枯病にはやや弱いため、発生に注意してください。多発すると倒伏しやすくなるので、必要に応じて防除します。常発地では穂ばらみ期までに防除を行いましょう（写真5）。



紋枯病（写真5）

## (7) 籾の褐変

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下では、もみ枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が発生しやすいので注意してください。常発地では、出穂期前に薬剤散布を行いましょう（写真6）。



内穎褐変病（写真6）

## (8) 熱中症対策

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を外して作業を行いましょう。また、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。のどが渇いていなくてもこまめに水分補給しましょう。また、帽子の着用や汗を発散しやすい服装を心がけましょう。

なお、農作業を行う際はなるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。

## 【参考】

表3 農業技術センター（平塚市）での過去10年（2014～2023年）平均

作期	品種名	標準的な追肥時期	水を切ってはいけない期間	出穂期	成熟期
6月上旬植	はるみ	（7月26日頃）	7月26日～ 8月20日頃	8月10日	9月17日
	キヌヒカリ	（7月20日～ 25日頃）	7月25日～ 8月19日頃	8月9日	9月17日
	てんこもり*	7月27日頃	8月1日～ 8月25日頃	8月15日	9月24日
6月中旬植	はるみ**	8月1日頃	8月1日～ 8月26日頃	8月16日	9月24日
	キヌヒカリ	7月26日～ 31日頃	7月31日～ 8月24日頃	8月14日	9月24日
	てんこもり*	7月31日頃	8月5日～ 8月29日頃	8月19日	10月1日

・ 水を切ってはいけない期間は、出穂期約15日前～出穂期約10日後までの期間。水稻が最も水分を必要とする時期なので、水田の水位を十分に保つようにする。

・ \*2018～2023年（6年平均）のデータに基づく。 \*\*2015～2023年（9年平均）のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課

TEL：0463-58-0333 内線 381～384